



リリースノート

ソフトウェア TRIMBLE® ACCESS™

バージョン 2013.10
改訂 A
五月 2013



Legal Information

Trimble Navigation Limited
Engineering Construction Group
935 Stewart Drive
Sunnyvale, California 94085
U.S.A.
www.trimble.com

Copyright and Trademarks

© 2009–2013, Trimble Navigation Limited. All rights reserved.

Trimble, the Globe and Triangle logo, Autolock, GPS Pathfinder, Terramodel, and TSC2 are trademarks of Trimble Navigation Limited, registered in the United States and in other countries.

Access, GX, Link, Trimble Geomatics Office, Trimble Survey Controller, Trimble Total Control, TRIMMARK, VISION, VX and xFill are trademarks of Trimble Navigation Limited.

RealWorks is a registered trademark of Mensi SA.

Microsoft, ActiveSync, Windows, Windows Mobile, and Windows Vista are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by Trimble Navigation Limited is under license.

All other trademarks are the property of their respective owners.

This document is for informational purposes only. Trimble makes no warranties, expressed or implied, in this document.

Release Notice

This is the May 2013 release (revision A) of the Trimble Access release notes. It applies to version 2013.10 of the Trimble Access software.

目次

Trimble Access ソフトウェアバージョン 2013.10	4
一般測量	6
道路	10
トンネル	11
採掘鉋	12
Trimble Access Installation Manager	13
ソフトウェアとハードウェアの必要条件	14

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2013.10

このリリースノートは、Trimble® Access™ ソフトウェア バージョン 2013.10に関する情報を含みます。

Trimble Accessソフトウェアはフィールドで使用する測量ツールの数々や、オフィスおよびフィールド向けのウェブ基盤のサービスを提供します。これらのプログラムは、お買い求めになったパーツによって、コントローラ、オフィスコンピュータ、またはTrimbleがホストするサーバなどにインストールされています。

コントローラのソフトウェアとライセンスのインストール

オペレーティングシステムのインストール

新しいTrimble Tabletにはオペレーティングシステムはインストールされていません。タブレットを起動して、ウィンドウズ®のオペレーティングシステムをインストールし、Windowsのアップデートを適用してください。

他の全ての新しいコントローラには、オペレーティングシステムはすでにインストールされています。

ソフトウェアとライセンスの設定

コントローラをご使用になる前に、Trimble Access インストールマネージャーを使用して、アプリケーションとライセンスをインストールしてください。もし今までに:

- Trimble Access インストールマネージャーをインストールしたことがない場合は、www.trimble.com/taim からインストレーション情報を得てください。
- Trimble Access インストールマネージャーをインストールしたことがある場合は、自動的に更新しますので、再インストールの必要はありません。開始 / 全プログラム / Trimble Access インストールマネージャーの中から選択し、インストレーションマネージャーを始動してください。

ソフトウェアおよびライセンス・ファイルのインストールおよび更新についての詳細はTrimble Access インストール・マネージャーのヘルプ・ファイルを参照してください。

メモ– Trimble CU コントローラでは、Trimble Access バージョン 2013.00 またはそれ以降を、Trimble CU モデル3 (S/N 950xxxx)のみにインストールすることができます。Trimble CU モデル1と2には、Trimble Access以降をサポートするのに十分なメモリがありません。

バージョンの使用条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2013.10をインストールして起動するには、1 五月 2013で有効な保証契約が必要です。

Trimble Access インストールマネージャーを使用してバージョン 2013.10をアップグレードする時、新しいライセンスファイルがデバイスにダウンロードされます。

オフィスソフトウェアの更新

バージョン 2013.10に更新した場合、オフィスソフトウェアも更新しなければなりません。この更新はTrimble Business CentreソフトウェアなどのTrimbleオフィスソフトウェアに一般測量 ジョブをインポートする場合に必要です。

Trimble Access Installation Managerを使用してコントローラを更新する場合、Trimble Access Installation Managerがインストールされているコンピュータのオフィスソフトウェアも同時に更新されます。更新に使用されなかった他のコンピュータを更新するには、以下のいずれかを行います:

- Trimble Access Installation Managerをそれぞれのコンピュータにインストールして、Office Updatesを起動します。
- Trimble Access ソフトウェアのTrimble Update Office Softwareパッケージを、www.trimble.com/support_trl.asp?Nav=Collection-84862から起動します。
- Trimbleデータ転送ユーティリティを使用します:
 - バージョン1.51以降をインストールして下さい。データ転送ユーティリティはwww.trimble.com/datatransfer.shtmlからインストールすることができます。
 - バージョン 1.51をお持ちの場合は、データ転送ユーティリティの新しいバージョンを更新する必要はありません。Trimble Update Office Softwareパッケージのどれかをwww.trimble.com/support_trl.asp?Nav=Collection-84862から起動することができます。
- Trimble Business Centerソフトウェアを最新のバージョンに更新する必要があるだけでしたら、オフィスのソフトウェアを更新するのにTrimble Access Installation Managerを起動する必要はありません。必要なコンバータは現在 Trimble Accessソフトウェアを起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。

Trimble Solution Improvement Program

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleのプログラムがいかに使われ、どのような問題が発生する可能性があるかなどの情報を収集しますTrimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします参加は任意で強制ではありません

参加を選択すると、ソフトウェアがお手持ちのコンピュータにインストールされますそのコンピュータに、Microsoft ActiveSync® 技術やWindows Mobile® Device Centerを利用してコントローラを接続するたびに、Trimble Accessソフトウェアがログファイルを生成し、自動的にTrimbleサーバへ送ります。このログファイルには、Trimble機器の用途、特定の地理的地域内でよく使用されるソフトウェア機能、問題が発生する頻度などのデータが含まれており、Trimbleが製品の修正に役立たせて頂きます。

Trimble Solution Improvement ProgramはいつでもアンインストールすることができますTrimble Solution Improvement Programの参加中止をご希望の場合は、コンピュータのプログラムの追加と削除メニューからソフトウェアの削除を行なうことができます

ヘルプと資料に関して

Trimble Access Help は、「文脈対応」ヘルプです。「文脈対応」ヘルプにアクセスするには、画面上部の?をタップして下さい。

ヘルプ項目のリストが表示されます。関連項目は反転表示されています。見たい項目を開くには、その項目名をタップします。

ヘルプのPDFファイルをダウンロードするには、<http://help.trimbleaccess.com>へアクセスして下さい。アプリケーションごとに異なるPDFファイルがあります。

一般測量

新しい特長

北斗衛星群のサポート

北斗衛星導航システムは中国航法衛星システムの正式名称で、以前はコンパスという名称で知られていました。Trimble Access の前のバージョンは、信号の評価と試験の目的で北斗衛星群へのログインをサポートしていました。衛星信号メッセージを指定するBeiDou Interface Control Documentが2012年12月にリリースされ、Trimble Access は今やRTKや後処理測量における北斗衛星の使用に完全に対応しています。

北斗衛星群の使用:

- 北斗はR10とR8-4受信機では標準サポートとなっており、R6-4とR4-3受信機ではオプションでサポートしております。
- RTK測量の場合は、ファームウェアのバージョン4.80以降を装備した受信機をご使用の場合に限り、北斗衛星群をご利用になれます。それ以前のファームウェアバージョンでも北斗へのログインは可能ですが、後処理測量には、こちらも是非ともファームウェアバージョン4.80以降を装備した受信機をご使用になるようお勧めします。
- RTK測量で北斗をご利用になる場合は、補正フォーマットとしてCMRxを使用しなければなりません。
- ログイン測量 (高速静止測量、PPK測量、RTK & ログイン測量)の場合は、受信機にログインしている場合だけ北斗を利用できます。
- 北斗衛星信号の捕捉はGPSへの付加サービスなので、RTKまたは後処理測量に使用する場合は、北斗衛星として少なくとも3つのGPS SVを捕捉しなければなりません。
- SBASディファレンシャル測量で北斗に切り替わった時、北斗衛星の補正信号が受信可能な場合は、北斗衛星がソリューション増強の目的で使われます。

測量済み基準点による精密タイマー

RTKでは、静止観測エポックカウンタは、精度が許容範囲外になるとリセットされます。カウンタは、各エポックの精度が連続して許容範囲内である場合にしかエポックをカウントしません。そうすることによって、最終的に保存される座標に使用される全エポックが必ず精度条件を満たすようにします。難しい条件下でポイントを計測する時間が長くなることは作業の妨げになりかねません。ある観測点を15秒以上静止観測していて、精度が許容範囲を超えた場合は、観測タイマーがリセットされるという警告メッセージが表示され、最後に観測された測位の中で精度の良好なものを保存するオプションが表示されます。

eBubbleの改善点

eBubbleから *eBubble options* 画面へのショートカットができるようになりました。eBubbleの左上のOptionsアイコンをタップして、*eBubble options* 画面にアクセスし、eBubbleをキャリブレーションしたり、eBubbleの感度や反応性を設定するという変更を加えることができます。

現在のアンテナ高で計算された斜距離が *eBubble* オプション画面と測位画面に表示されます。

衛星捕捉のリセット

GNSS受信機は RTK 初期化 画面で SV 捕捉のリセット 方法を使って その場での再初期化をサポートします。

GNSS 接続の改善点

GNSS受信機に接続すると、接続ダイアログに接続方法と接続先の機器が表示されます。この情報は、受信機が接続しない理由を診断するときに役に立ちます。

xFill 技術

受信機のファームウェアバージョン 4.80 は、WGS84でRTK固定局の位置が正しくない時の xFillのパフォーマンスを改善しています。固定局位置精度の警告は「測量スタイル」から削除されましたが、バージョン 4.80より前のファームウェアで測量を開始すると表示されます。このメッセージで無視するをタップすると、次回から表示されません。

QC1 記録の改善点

衛星数: QC1 記録に、観測中の最低衛星数とポイントが保存された時の衛星数の両方が含まれるようになりました。

精度劣化度: 最大DOP値が含まれることに加え、QC1記録はポイントが保存された時のDOP値も含むようになりました。

無線周波数

無線の周波数は小数点以下5桁まで表示されます。

捕捉グループの名称変更

基準局オプションや移動局オプション画面で、捕捉グループボックスの名称がGNSS信号捕捉となりました。L2Cチェックボックスの名称はGPS L2Cとなり、また、GPS L5チェックボックスの名称はL5となり、異なる衛星群タイプで得られる信号をより正確に区別できるようになりました。

新しい円形測定法

円形物の測定のために、新しく二分接線法を使用できるようになりました。この方法の使用時には、左右の接線を角度のみによる測定で観測するように促されます。2番目の接線を測定すると、トータルステーションが自動的に中心を向き、中心までの距離を測定し、接線の観測データから半径を算出し、生HA VASDIに保存されている対象物の中心までの測定距離データにその半径距離を加えます。ただ従来の中心 + 接線法も未だ円形の測定に利用できます。

角観測で得たポイントデータのCSVファイルへの追加

円形データを保存する前に、角観測オプションを使ってポイント測定データをCSVファイルに保存できます。このオプションを使うには、ジョブ/ジョブのプロパティ/追加設定からCSVへの追加を可能にし、次に標準偏差画面のファイルに追加するポイントデータを選択します。

点滅レーザポインタ

DR測定データを保存した後、レーザポインタが点滅するように設定できるようになりました。暗い環境下では、点滅レーザは測定が終了したことを示す視覚ツールとしてとても役に立ちます。

名称と詳細で並べ替え

特徴コードを選択する時に、名称や詳細フィールドをタップして、名称や詳細を並べ替えることができます。

カメラ

内蔵カメラ付きのコントローラでは、機器メニューから直接にカメラにアクセスできるようになりました。

タブレット用 Trimble キーボード

Trimble Tabletで Trimble Access を使用する時に、Trimble キーボードが使えるようになりました。この Trimble キーボードには以下の利点があります：

- Trimble Access ソフトウェアのあるフィールドをタップすると、自動的にキーボードが表示されます。
- Trimble Access ソフトウェアのある数値フィールドをタップすると、自動的にナンバーキーが表示されます。
- 表示する場所自動的に変更し、作業中のフィールドの妨げにならない。
- 戸外で作業する時に見やすいコントラスト。
- キーボードは利用できるスペースが最大になるようにレイアウトされており、その結果、大きなキーでデータ入力がかんたになりました。

解決された既知の問題：

- **ショートカットキー:** ショートカットキーが作動しなくなることがあるという問題は解決されました。
- **傾きの自動測定:** Trimble Access では、「傾き自動測定がレベルを待っています」や「移動を待っています」というメッセージを表示している間にも、杭打ちやポイントヘナビゲートを始めることができるようになりました。
- **線形の杭打ち時の過剰な傾き:** 過剰な傾きのあるポイントの保存時に、ポールが許容範囲内であるにもかかわらず「過剰な傾き」メッセージが表示され続ける問題は解決されました。
- **eBubbleの傾き許容範囲:** eBubbleは現在の測量タイプに基づいて傾きの許容範囲を設定できるようになりました。測量が中断し、測量方法が変更になった場合は、傾きの許容範囲はその変更になった測量方法に応じていつも正しくアップデートされるわけではありません。
- **インターネット接続:** 終了をタップして、インターネット接続を終了した後、リダイアルできるソフトキーが付きました。
- **RTK ネットワークステータス:** メニューオプションにあったネットワーク/基準局は、RTK ネットワークステータスに改名されました。

- **RTCM 変換:** RTCM RTK ネットワークが高さ情報グリッド残差のメッセージのみ送信していると座標が変換されない問題が解消されました。
- **高速ポイント:**承認ソフトキーを使うと、高速ポイント法でポイントを測定できないという問題が解消されました。
- **ポイント詳細のレビュー:**ポイントの詳細をレビューする時にチェーンページとオフセットオプションが表示されない問題が解消されました。
- **ファイルのインポート:**受信機のファイルのインポート画面は、内部メモリと外部メモリの両方に対応している時にのみ上位フォルダを表示するようになりました。
- **杭打ちオプション:**杭打ちオプションで自動 F1/F2 オプションにアクセスできるようになりました。
- **固定点からの杭打ち:**測設画面のグラフィック表示内で杭打ちするとそのポイントの名前の上に固定点からという名称がドラッグされて重なるという問題は解決されました。
- **杭打ち線形:**オフセットが工事オフセットと一緒に特定されると設計標高値が時折消えるという問題は解決されました。
- **テンプレート内のアクティブマップ:**ユーザを切り替えると、テンプレートで定義されたアクティブマップファイルが新しいジョブに正しくリンクされるようになりました。
- **カメラ:**カメラのアプリケーションで OK ボタンを押すと、時折背景のアプリケーションと互いに影響を及ぼし合うという問題は解決されました。
- **Trimble Business Center内の画像:**Trimble Business Center ソフトウェアを使って見るとパノラマ内の画像の位置がずれるという問題は解決されました。この問題は、視覚機器を使いながら、しかも、トータルステーションがオートロックモードになっている場合にのみ生じていましたが、本機では、パノラマで測定している時は自動ロックは解除されるようになりました。
- **円弧のソリューション:**円弧状上でポイントを計算していたり、円弧をデータベースに追加している時に座標計算 / 円弧解オプションにおいて生じていた次の問題は解決されました。
 - 事前にある値が入力されていた場合には、コードフィールドは空白になるように設定できません。
 - ポイント名の変更が簡単になりました。以前は名称を一度以上入力しなければ、新しい数値が受け付けられませんでした。
 - コードを編集しても、編集したポイントの名称はもはやデフォルト値には戻らないようになりました。
- **角度で表す勾配:**勾配は角度で設定され、正しく表示されるようになりました。
- **オフセットのオートロック:**測量スタイルオプションにあるオフセットのオートロックをオフチェックボックスのステータス、またはポイントの測定オプション画面が無視される問題が解消されました。
- **アプリケーションエラー**以下を実行する際に、時折見られたアプリケーションエラーが改善されています:
 - 移動局の無線設定の変更
 - Trimble 5600へのロボティック接続の最中のメッセージボックスのキャンセル
 - ダイアルアップまたはインターネット測量開始時のメッセージボックスのキャンセル
 - コントローラへの大容量の受信機ファイルのインポート

道路

新しい特長

道路と相対的に定義した追加ポイント

追加ポイントを定義メニューで道路と相対的に定義できるようになりました。これらのポイントはキー入力したり、.csvファイルや.txtファイルからインポートすることができます。キー入力のポイントもインポートされたポイントも共に編集できます。この追加ポイントは道路のレビュー時に見ることができます。従来は追加ポイントはインポートしかできず、しかも、道路の測量中にしか定義できず、手動入力に対応していませんでした。

キーステーションの略称

RS、RE、SC、VCS、VCE、VPIといった道路上のキーステーションの略称が杭打ち画面上に表示されるようになり、道路データの他の画面でもさらに一貫して表示されるようになりました。

曲線を定義する隣接要素

らせん-円弧-らせん曲線の半径は通常一致しますが、曲線を定義する隣接要素が異なる半径を定義している場合は、その要素の左にあるアイコンが赤色で表示されるようになりました。

Trimble 道路のレポート

Trimble 道路で、定義/レポートオプションに横断面にある各ポイントの座標が含まれるようになりました。また、レポートフォーマットが読みやすくなるよう改善されました。

解決された既知の問題:

- **既存の記録の上に新しい記録の挿入:** テンプレート座標や片勾配、拡幅記録を定義する時、ひとつしか記録がない場合に、最初の記録の前に新しい記録を挿入できるようになりました。従来はこれを行うには、最初の記録を編集したり、削除しなければなりません。
- **ファイルからの位置データ:** 杭打ちオプション、ファイルからの位置データで杭打ちをしている時は設計高を編集することができないという問題は解決されました。従来は編集した数値は元の数値に戻っていました。
- **横断勾配の定義:** 以前にステーションで杭打ちし、オフセットした時に定義された横断勾配が、ファイルからの位置データによって杭打ちされた時に保持されたままであるという問題は解決されました。
- **自動測定:** 自動測定機能が杭打ちされた位置を自動測定できないという問題は解決されました。これは精密高を選択して統合測量を行った場合にのみ問題になったものです。
- **高速ポイント:** 承認ソフトキーを使うと、高速ポイント法でポイントを測定できないという問題が解消されました。
- **SnakeGrid:** SnakeGridを使用して座標系を構築する時に測量を始められないという問題は解決されました。これは座標系/キー入力パラメータを使用して、SnakeGridを選択したときのみ問題になったものです。

- **杭打ち:**測位を保存した時に、**杭打ちオプション**選択画面に引き戻されるという問題は解決しました。本バージョンでは、測設画面のグラフィック表示に留まりながら、Escがタップされるまではそれ以降のポイントを測定し続けられるようになりました。これは、従来の機器を使いながら最も近くのオフセットでTrimble道路を杭打ちしている時にのみ問題になったものです。
- **Trimble 道路平面図線画:**ターゲットに近づいた時にTrimble道路を杭打ちしている平面図線画が消えてしまう問題が解消されました。これは、トータルステーション測量でロボット制御を使用して杭打ちを行う時のみに見られた問題です。
- **Trimble 道路杭打ちポイント表示:**このリリースでは、以前と同じように設計ポイントの表示は杭打ちされると実線の円で表示されるよう戻されました。この機能は、アプリケーションエラーの原因となる恐れがあるのでTrimble Access バージョン2013.01から削除されました。
- **Trimble 道路杭打ち矢印の表示:**Trimble道路で側設を杭打ちする時に矢印が空洞になってしまう問題が解消されました。ヒンジとキャッチの間で杭打ちされるステーションにいる時のみ見られた問題です。
- **Trimble 道路杭打ちデルタ表示:**光学測量機を使用してステーションとオフセットで杭打ちをしている時にデルタ表示設定が保存されない問題が解消されました。

トンネル

新しい特長

複数の表面

テンプレートの定義の時にひとつ以上の表面を作成できるようになりました。ある表面を、特定のオフセットによって既存の表面に相対的に定義することができます。または、ある表面を、既存のラインや円弧要素法を用いて定義づけます。トンネル定義をリビューし、トンネルを測量している時に、すべての表面を横断表示で表示します。

「テンプレートの測定」という機能は、**表面の測定**という名称に変わりました。

表面測定時に、表面を時計回りに測定するように促されるようになりました。

キーステーションの略称

TB、TE、SC、VCS、VCE、VPIといったトンネルに関するキーステーションの略称が杭打ち画面上に表示されるようになり、トンネルデータの他の画面でもさらに一貫して表示されるようになりました。

曲線を定義する隣接要素

らせん-円弧-らせん曲線の半径は通常一致しますが、曲線を定義する隣接要素が異なる半径を定義している場合は、その要素の左にあるアイコンが赤色で表示されるようになりました。

新しいトンネルレポートのオプション

各トンネル縦断面のテンプレート要素を定義する線形と全てのポイントにレポートを生成することができるようになりました。レポートを生成するには、定義をタップしてトンネルを選択し、レポートソフトキーをタップします。線分では、オフセット、座標、高さ、各ステーションのコードがレポートされます。各表面では、表面名、オフセット、座標、高さ、テンプレート要素タイプ、各ステーションの

コードがレポートされます。これらの値は、分解解析された横断面のもので、適用されていると思われる回転と線形オフセット値の他、異なるテンプレート間の補間が含まれます。

解決された既知の問題:

- **既存の記録の上に新しい記録の挿入:**テンプレート座標や回転、開始位置、線形オフセット記録を定義する時、ひとつしか記録がない場合に、最初の記録の前に新しい記録を挿入できるようになりました。従来はこれを行うには、最初の記録を編集したり、削除しなければなりませんでした。
- **TXLファイル:**長さをゼロとする円弧要素を持つトンネル定義はレビューや測量ができないという問題は解決されました。
- **レビュー開始位置:**測定した開始位置の詳細をレビューする時に、デルタオフセット値が報告されるようになりました。
- **自動スキャン:**自動スキャンを実行したり、トンネル内の位置を測定したり、あるポイントを設置する時に、測定されたポイントに対する標準誤差が記録されないという問題は解決されました。
- **スキャン範囲:**スキャン範囲内の最初のステーションに<None(なし)>テンプレートが割り当てられた時にスキャンを開始できないという問題は解決されました。
- **SnakeGrid:**SnakeGridを使用して座標系を構築する時に測量を始められないという問題は解決されました。これは座標系 / キー入力パラメータを使用して、SnakeGridを選択したときのみ問題になったものです。
- **アプリケーションエラー**以下を実行する際に、時折見られたアプリケーションエラーが改善されています:
 - いくつかのステーションにテンプレートがないトンネルを自動スキャンする
 - <None(なし)>テンプレートのトンネルをスキャンしようと試みる

採掘鉞

新しい特長

センターラインに相対的なレーザラインの杭打ち

生成されたレーザラインをセンターラインから相対的に杭打ちできるようになりました。センターラインや出来形ラインを終了ポイントを越えて延長することもできます。ラインの延長は、ライン定義の時に終了点を越えて延長フィールドに数値を入力して行います。

センターラインと出来形ライン間の切替えソフトキー

センターラインと出来形ラインを定義する時に切替えソフトキーが付け加えられて、ラインの方向を切替えられるようになりました。

杭打ちデルタ画面

表面にある位置を特定する自動杭打ちの作業工程が繰り返されます。この処理は自動的に開始され、位置が特定されるとレーザーが点滅し、表面にある位置がマークされる間マーク遅延期間によりシステムが一時中断されます。自動杭打ち処理のデルタ結果がマーク遅延期間中に表示されるようになりました。

角観測

採掘鉞アプリケーションを使って角観測ができるようになりました。従来は一般測量メニューからのみ角観測ができていました。

角観測で得たポイントデータのCSVファイルへの追加

円形データを保存する前に、角観測オプションを使ってポイント測定データをCSVファイルに保存できます。このオプションを使うには、ジョブ/ジョブのプロパティ/追加設定からCSVへの追加を可能にし、次に標準偏差画面のファイルに追加するポイントデータを選択します。

点滅レーザーポインタ

DR測定データを保存した後、レーザーポインタが点滅するように設定できるようになりました。暗い環境下では、点滅レーザーは測定が終了したことを示す視覚ツールとしてとても役に立ちます。

解決された既知の問題:

レーザーライン:鉞山の右側の測位が正しく位置づけられないという問題は解決されました。以前は、右側で測定される最初の測位がとばされたり、測定できなくなると、機器が鉞山の左側に方向を合わせ直し、それに続く右側の測位も鉞山の左側に自動杭打ちしていました。

Trimble Access Installation Manager

新しい特長

- Trimble Access Installation Manager では、各構成要素の次に情報アイコンが含まれるようになりました。アイコンをクリックすると、このコンポーネントで得られる最新の特徴と解決済みの問題を見ることができます。
- リリースノート ボタンを押して直接Trimble Access Helpホームページへ行けるようになりました。このホームページでは、現在と以前のすべてのバージョンのソフトウェアのリリースノートとヘルプファイルを得ることができます。

ソフトウェアとハードウェアの必要条件

Trimble Access ソフトウェアバージョン 2013.10 は、以下にあるソフトウェアとハードウェア製品との通信に最適です。このソフトウェアは以下のバージョン以降のソフトウェアとも通信することができます。

Trimble ソフトウェア	バージョン
Trimble Business Center (32-bit)	2.90
Trimble Business Center (64-bit)	3.00

Trimble 受信機	バージョン
Trimble R10	4.80
Trimble R8-3, R8-4	4.80
Trimble R6-4, R6-3	4.80
Trimble R4-3, R4-2	4.80
Trimble R7 GNSS	4.80
Trimble R5	4.80
Trimble NetR9	4.80
Trimble GeoXR	4.55
Trimble R8-2, R6-2, R4-1	4.63
5800 II	4.63
5700 II	4.63

Trimble 機器	バージョン
Trimble VX™ Spatial Station	R12.4.11
Trimble S8トータルステーション	R12.4.11
Trimble S6トータルステーション	R12.4.11
Trimble S3トータルステーション	M2.1.31
Trimble M3トータルステーション	1.30 2.10

最新のソフトウェアとファームウェアのバージョンについては、下記もご参照ください。

<http://trl.trimble.com/dscgi/ds.py/Get/File-93082/Survey%20Software%20and%20Firmware.pdf>

対応するコントローラのオペレーティングシステム

最新のコントローラオペレーティングシステムは、以下に挙げられたTrimble Accessソフトウェアバージョンで初めて対応しています。

コントローラ	Microsoft Windows オペレーティングシステム	以下のバージョンで初めて対応: Trimble Access バージョン
Trimble TSC3	Microsoft Windows Mobile Embedded Handheld 6.5	2012.00
Trimble TSC3	Microsoft Windows Mobile Version 6.5 Professional	1.8.0